



ロレタリア詩集
2

日本プロレタリア文学集・39

プロレタリア詩集 (二)

定価 二八〇〇円

一九八七年六月三十日 初版 ©

発行者 松 宮 龍 起

発行所 株式会社 新日本出版社

〒151 東京都渋谷区本町一の八の七
電話 (〇三) 三三〇一七一一
振替 東京 三一 三六八一

印刷所 光陽印刷株式会社
製本所 みさと製本印刷株式会社

落丁・乱丁本がありましたらおとりかえいたします。
本書の内容の一部または全体を無断で複写複製（コピー）して配布
することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の
権利の侵害になります。小社あて事前に承諾をお求めください。

ISBN4-406-01524-8 C0392

日本プロレタリア文学集・39

プロレタリア詩集
(二)

目次

伊藤信吉	(五月の霜 燕二 嵐の中に 朝の歌 雪一 ぬか雨に濡れて 河 家系 夜風の中を 手紙に代えて 故郷第三)	七
今野大力	(組織された力 百姓仁平 私之母 金属女工の彼女 凍土を噛む 屈辱 奪われてなるものか ねむの花咲く家 胸に手を当てて 一疋の昆虫 花に送られる)	三
今村恒夫	(歩哨線 手 鋼鉄 プチロフ工場 死ぬる迄 土地を守るのだ 山上の歌 アンチの闘士)	四
重政順平	(組合 五月祭へ！)	五
丹沢 明	(工女の歌 千住大橋)	七
大谷圭三	(故渡辺政之輔を悼む)	五
米田 曠	(返事 さあ、押し出だせ——)	六
赤堀昌宏	(I村の意志 朝顔)	四
森 佐一	(山村食料記録)	六
伊藤 和	(稲を刈る 高神村事件のときの詩 赤い 煉瓦の建物の奥 大いにやるべし 逆流)	六

上野頼三郎	(この俺達の腕がするのだ 村に落ちて居る詩)	七三
柴山群平	(供給人夫)	七六
神谷 暢	(友達のこと)	七七
小森 盛	(飢渴地帯)	七八
森 竹夫	(保護職工)	七九
野長瀬正夫	(此れが最後の愚痴だ 故郷)	八〇
久野 昭	(監房)	八一
楨本楠郎	(さらわれた兄よ おふくろへ)	八三
猪狩満直	(馬 炭坑長屋物語)	八七
更科源蔵	(チャチャはこう話して呉れた コタンの学校 〔出席歩合、欠席児童、地理的反則、卒業式〕)	九一
眞壁 仁	(蚕の詩その一とその十 祖母の詩 街の百姓(一)(出 野良)	九四
中島葉那子	(馬鈴薯階級の詩)	一〇七
葛西暢吉	(叩き大工の詩〔いノ一、ろノ一、はノ一、ほノ一、とノ三〕)	一〇九

石井 秀	(虹 蜂 女子軍の意気 天の川へ響けるほど 石を背負う娘たち)	二三
山中兆子	(製糸女工の唄)	二〇
若杉香子	(此処にも生れる彼等 汜蓋)	二三
仙庭 康	(百万の中の母と子)	二三
宮城研一	(戦車)	二七
岩本鉄夫	(さあ兄弟レボを渡しな)	二六
窪田けさ子	(公休日の朝)	二九
小林総吉	(故春藤の思い出 朝)	三〇
松山達枝	(戦いの前に バスの中で やられた友に)	三三
東園満智子	(おっ母さん)	三七
上田 進	(横顔)	三九
石田きみ	(プロレタリアの女の手)	四二
丘田琢二	(握手)	四四

橋本正一 (銃口は彼らに 中国の同志へ手をさしのべる 研究会 三月の歌 村)……………一四四

植村 諦 (九月一日を憶う 焚火 偽る)……………一五三

京山あい子 (妹よ 同志Kさんへ)……………一五六

山路英世 (印刷工の歌)……………一五九

松木健介 (或る生活断片 俺達の田んぼ)……………一六三

佐藤さち子 (洋傘 簾を織って 若者に 田をうないつつ 屍を焼く黒煙よ、渦巻け! 亡母の日に!)……………一六五

草野心平 (前橋紅雲町五十六番地の一角 風邪には風)……………一七四

広野八郎 (寒夜 臍首になった同志へ 汨濫後の河岸に立ちて)……………一七六

中野鈴子 (母の手紙 鎌 途中で 味噌汁 わたしの正月 母の叫び)……………一八三

村田達夫 (牢屋に冬を越す同志へ 護送車 芝浦 芝浦 埋立地 兵士を送る 一九三三年のあいさつ)……………一九二

小鹿富美子 (或る女教員はかく歌う)……………二〇一

若林つや (面紗を取ろう!)……………二〇六

新井 徹 (入営万歳! 夜明けを待つ! ソヴェートへ代 表を! 走れ! オートバイ 遊就館 十一月)……………二〇七

島 幹吉	(牢獄で殺された同志へ 子供)	二四
佐野カズ子	(無産婦人デーを闘え 割引電車で 飢と寒さの中から 夫について)	二七
多木要作	(颯風を突いて! 俺達の唄を! 備えよ! 時だ 国際反戦会議)	三三
榎南謙一	(農村から 無念女工 天瓜粉 夜雲の下)	三九
松浦茂作	(拷問は闘争への拍車だ)	三五
沖田英雄	(煙に曇る夜の屋根裏)	三七
田中英士	(六郷川の岸 朝ともなれば 死 第二の荒川)	三九
大道寺浩一	(唯だ一つのものへ 最上川の歌 軍服を着た百姓)	四六
佐野嶽夫	(兵營通信 青年の歌 市電の兄弟に 塔上の將軍 春の歌 春の通信)	五一
細井 敬	(疲れ 用意 映画労働者の歌 スチームハンマーの響き 釈放の朝)	五三
林 光範	(旋盤工の歌)	五〇
松村作治	(党よ! 指令を)	七一
桜井徳太郎	(除草機)	七四

小熊秀雄	(スパイは幾万ありとても 低気圧へ 代表送別の詩 馬上の詩 蹄鉄屋の歌 しゃべり捲くれ 鶯の歌 昂 然たる愛にしよう 愛と衝動と教智 馬車の出発の歌)	二七五
登口義人	(朝早く 正月を迎えて)	二八六
千田岩四郎	(移動印刷隊 今こそ俺達は起ち上ろう)	二八九
松原 信	(日織のオルグへ)	二九一
久 勤	(吼えろ)	二九三
木村好子	(洗濯デー 兄ちゃん メーデーを待つ 落葉 極めて家庭的に)	二九五
平沢貞二郎	(消息 老のこの目にも)	二〇〇
山田 一	(夜なべ)	二〇一
城 三樹	(職場で 朝を衝いて)	二〇三
赤木 浩	(オレの喜び)	二〇七
杉沼秀七	(橋 凶作地からの別れ 部屋)	二〇九
荒石桓夫	(夜の明けぬうちに 不払工場から)	二二三
川口 潤	(俺達の敵は！ 首途)	二二五

上原次郎	(島に植えつける種子)	三二
山田清三郎	(五月一日に 午後三時頃 記念日前夜に 朝の握手)	三九
木原 豹	(別れ)	三四
鈴木泰治	(春に与える詩 鋪装工事から あいつが 立上つて来たのは 銅葉 夜の街道で)	三七
高橋 基	(支那兵の死骸に 夜業 ベタルをふむ)	三四
坂 喜十	(デパート 女店員)	三七
武田 進	(耐える詩 西瓜)	三九
伊藤信二	(冬のしぶき)	三四
渡辺哲夫	(差入れ)	三四
島田宗治	(憎しみから 虫は語る 昼休み)	三四
槇村 浩	(生ける銃架 間島バルチザンの歌 出征 一九三二・二・二) (六 明日はメーデー 異郷なる中国の詩人たちに 餅の歌)	三七
駒津春路	(俺等の村)	三七
巢貝慎二	(飢饉カンパ報告)	三六

姉川茂安	(デンタンよ！)	三七一
石井高子	(夕暮)	三七二
今泉 純	(役所の中から――)	三七三
内藤 忍	(東北の兄弟よ)	三七四
田村 武	(時計)	三七五
広海大治	(章魚人夫 拡大されゆく国道全線 サガレンの浮浪者)	三七六
代田 央	(戦艦『ボテムキン』の記憶に)	三七七
村山籌子	(みみず先生の歌)	三八六
佐川尖二郎	(鉄骨の上にて)	三八九
久木仁吉	(あの三人について)	三九〇
北里拓也	(箴)	三九一
千葉武郎	(鞭)	三九二
鈴木初江	(ガリパンのひびき)	三九三

村田道雄	(父と子).....	三九四
森谷 茂	(五月雨の日に そいつの靴 平つくばる 教師と子供).....	三九六
大村彦七	(裁判の日に).....	四〇一
岩瀬 正	(荒野にて).....	四〇三
船方 一	(登録の朝 ふるさとへの歌 一日の仕事 をおえて まだ見ぬ同志におくるうた).....	四〇五
宮本武吉	(北満葬送 若き大工の歌).....	四一三
起村鶴充	(土に咽ぶ秋 おこよの詩 霜の記録).....	四一六
木原 実	(山から).....	四二〇
堀田貞夫	(防衛 火夫の歌える六月!).....	四二二
木下 郁	(凱旋).....	四二四
〇〇二等兵	(滿蒙水害座談会).....	四二八
佐藤宏之	(霧進する機関車 五月一日朝の湊町駅).....	四三〇
中山フミ	(入営する弟に).....	四三三

村田 哲	(弔辭)	四三五
越後谷隆治	(小さい仲間よ)	四三六
小村俊一郎	(便衣隊)	四三八
大元清二郎	(決意 体臭 鉄骨工事場 旋盤)	四三九
佐々木イオリ	(思慕 その日毎 よいどれた闇)	四四四
小田 英	(ねこやなぎ 繭)	四四八
宗像政喜	(煙草収納の頃)	四五二
鈴木 清	(囚われの唄)	四五三
津川莊司	(腕をふりあげる時)	四五五
内田 博	(救世軍と少女 坑内 肉体)	四五六
山村梯一	(春を呼ぶ 馬 吹雪)	四五九
志水 克	(蚤 土)	四六三
大羽毛進	(霜に対峙す 難産)	四六六

松永浩介 米倉庫で 船底修理 袂別 朝の坂道) 四六八

西 一夫 (待機 スイッチ) 四七五

大江鉄磨 (職場の歌 懐 市立共同宿泊所 河の上の職場) 四七八

大谷従二 (職業紹介所にて) 四八三

平林彪吾 (朝へ行く) 四八四

古賀一久 (新県道) 四八六

中村 要 (私の花嫁 雹) 四八七

斎藤 薫 (白い指 たらひ廻し) 四八九

大石 創 (前進 コルホーズは招く) 四九一

武田亜公 (朝 雪の降る日) 四九三

秋田雨雀 (春を告ぐるモスクワ河の流水) 四九六

大江満雄 (私の胸には機械の呼吸がある 乳のでない母とミルク
で育った子達 アデイスアベバの老母 毒ガスの中で) 五〇〇

岩切幸之助 (機関庫裏の屋根の下で) 五〇七

福永 剛	(自由港D埠頭 地球儀)	五〇九
長谷川七郎	(乾燥試験)	五一
竹村 茂	(怒濤の生活)	五二
土屋和郎	(アンゴラ兎)	五二四
土谷 麓	(呪咀)	五二五
菅原克己	(北風の賦)	五二七
赤石 茂	(杭打のうた 走れ！トロッコ 生活の河よ！)	五二八
金親 清	(くるま井戸 竹の葉)	五二四
和田節子	(兒童達に)	五二五
大最上堰	(鋼鉄)	五二七
今野久子	(夫の死に面して)	五二九
鈴木浅五郎	(浜辺)	五三〇
三浦矢一郎	(鲁迅献歌)	五三一